

未利用バークのきのこ栽培培地への活用

県内の木材チップ工場において、チップ生産過程で大量に発生するスギやアカマツのバーク(樹皮)の処理が課題となっています。

バークは家畜敷料や燃料等の用途がありますが、利用は一部に限られ、その多くは山積みになっており、廃棄する際は産業廃棄物として有償で処分する必要があります。

今回、バークの有効活用を図るため、きのこ栽培の培地への活用を検討したので紹介します。

栽培試験の概要

栽培の流れ

- 1 培地調製
- 2 菌床作成
- 3 室内培養
- 4 野外発生

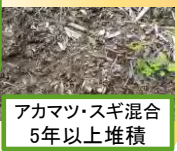
1 培地調製: 基材にバークを混合

培地組成

培地基材: 米ぬか: フスマ
10 : 1 : 1
(乾燥重量比)

区の構成	培地基材 混合割合		
	ナラオガ粉	スギバーク	アカマツ・スギ混合バーク
対照区	10	0	0
スギ (半年堆積)	5割	5	0
	10割	0	10
アカマツ・スギ混合 (5年以上堆積)	5割	5	0
	10割	0	10

未利用バーク



2 菌床作成

- 1 培地充填: PP製袋に2kg充填
- 減菌: 121°C 60分
- 冷却: 1晩冷却
- 接種: 4種の菌を供試
 - ◆キサケツバタケ
 - ◆キツブナラタケ
 - ◆ハタケシメジ
 - ◆ヒラタケ

3 室内培養

- ◆温度21°C
- ◆1~2か月培養

4 野外発生方法



発生場所
ヒラタケ: プランター
その他のきのこ: 地上

スギバークで菌床を埋設

発生したきのこ



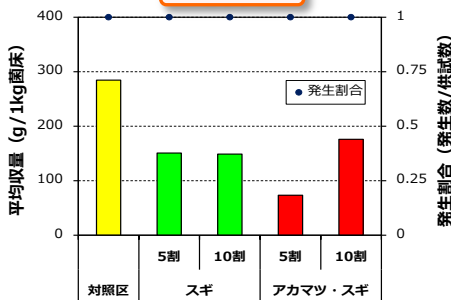
ヒラタケ

ハタケシメジ

未利用バークは培地への利用が可能

栽培試験結果

ヒラタケ



ハタケシメジ



対照区が最良
バーク利用で100g程度減収

アカマツ・スギ10割区で最良
→既存の培地に近い収量

今後の展開

今回、未利用バークを混合した培地でヒラタケとハタケシメジの栽培が可能であることが分かりました。特にハタケシメジについては、既存の培地と同程度の収量が期待でき、栽培コストが下げられる可能性もあることから、今後は実用化に向けた取組を実施していく予定です。